

地域連携だより

## Face to Face

第 47 号

役職等はすべて取材日時点のものです。

- 「地域連携だより Face to Face」は、紙面版「顔の見える会議」をコンセプトとした、主に医療職・介護関係職などの、ケアを担う多職種向け情報紙です。地域の様々な情報が皆様に共有されることで、顔の見える関係構築や相互理解推進の一助となることを目指しています。
- 地域連携だよりは、地域包括ケアシステムの充実に資する皆様の取組を広く一般にも周知するため、市ホームページで公開しています。

## 令和 4 年度釜石市包括的支援の仕組みづくり事業

釜石市では、「地域のつながり」を処方することで健康課題を解決しようとする**社会的処方**を契機とした住民の社会参加と地域づくりを推進することを目的とした、「釜石市包括的支援の仕組みづくり事業」を推進しています。事業は以下の 4 つのプロジェクトにより進められました。また、当事業の推進にあたっては、多職種からなる事業推進検討会が設置されました。

- ① かかりつけ医等と保険者との情報連携の仕組みづくり
- ② 包括的相談支援体制構築に向けた取組
- ③ 社会的処方実践に向けた取組
- ④ 住民主体の地域づくりプラットフォーム構築に向けた取組

## ◎ 事業推進検討会（プロジェクトチーム）の設置

事業推進検討会は、市地域包括ケア推進アドバイザーの後藤純氏（東海大学准教授）と寺田尚弘氏（釜石医師会理事）を筆頭に、職能団体や病院の連携室、社会福祉法人、地区センター会議関係者等、計 13 人の多職種による委員構成で設置されました。



検討会は、第 1 回開催の令和 4 年 11 月 1 日から翌年 2 月 22 日までの計 4 回開催され、事業全体の進捗確認と推進に向けた意見交換が行われました。

また、第 2 回～第 4 回の検討会では、進捗確認の他、社会的処方に向けた事例検討が行われ、各委員が各々の立場（機関・職種）において、リンクワーカー（つながり支援）を実践する可能性も踏まえて、当市の社会的処方の可能性・方向性について意見が交わされました。



事業を部局横断的に推進するために、各回とも、当市の地域包括ケアシステムの充実に深く関わる関係部課長（保健福祉部長以下関係各課長、市民生活部長、まちづくり課長、市民課長、生活応援センター所長、統括保健師等）がオブザーバーとして出席しています。

\*\*\*\*\* 検討会参加者の意見 \*\*\*\*\*

- 🌸 今回作成した連携パスで、対象者を早期発見し、保健、医療・福祉が適切につながる事が可能であり、期待が高まった。
- 🌸 当市は、連携の土台は出来ている。市民のための本当に必要な連携を選択して行きたい。

## 令和 5 年度第 4 回釜石医師会学術講演会開催のお知らせ

日時：令和 5 年 7 月 19 日（水）18 時 30 分 場所：釜石 PIT

《特別講演》健康の社会的決定要因を踏まえた診療

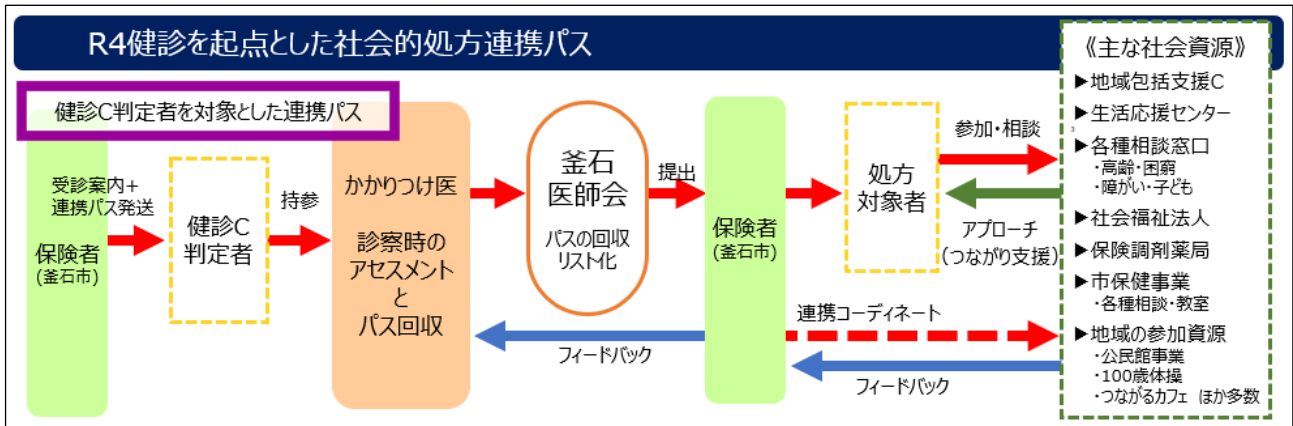
～「社会的処方」の可能性を考える～

講師：京都大学大学院医学研究科社会疫学分野 主任教授 近藤尚己先生

共催：釜石医師会・釜石歯科医師会・釜石薬剤師会・釜石市

対象：三師会会員、釜石市職員ほか多職種 【問い合わせ】釜石医師会 Tel.23-7875





◎釜石医師会と連携した「社会的処方連携パス」の運用

社会的処方とは、医師が患者に薬を処方するように、地域の活動やサービスを処方することで、患者の健康課題の解決を目指すものです。

市では、庁内外の関係者で協議を重ね、市の健康診断（特定健診ほか）の結果がC判定の方で、同意を得られた方を対象とした「社会的処方連携パス」が、釜石医師会との連携により運用されました。今回作成した連携パスにより、対象者の「治療の方針」や「保健指導や生活上の支援の必要性」等の情報が市に提供され、市の保健師等が、ニーズに応じた社会資源につなげる取組が実施されたものです。

◎社会参加資源データベースの作成

市内8地区に設置されている生活応援センターは、地域の生涯学習の拠点として、住民のニーズに応じて「生涯学習資源」を紹介しています。今回、これらの情報をもとに、活動や団体を直接知らない多職種の方でも「安心して活用できる」という視点で情報の精査を行い、社会的処方でも活用可能な「社会“参加”資源」データベースが作成されました。今後、活用ルール等を整理した上で、関係者に周知する予定です。



歯科と学ぶ多職種連携研修会

2月8日、釜石情報交流センター（釜石 PIT）で、多職種を対象とした研修会が釜石歯科医師会とチームかまいしの共催により開催され、釜石歯科医師会会員のほか医師・薬剤師・病院関係者・介護支援専門員など約40名の参加がありました。

歯科と学ぶ多職種連携研修会

～お金にまつわる福祉の制度と多職種連携～

1. 講演：事例から知る成年後見制度  
講師：釜石・遠野地域成年後見センター センター長 赤崎幸子氏
2. 講演：日常生活自立支援事業の概要と多職種連携による事業の活用  
講師：釜石市社会福祉協議会 専門員 遠藤光夫氏  
はまゆり在宅介護支援センター 介護支援専門員 村上真理子氏



釜石歯科医師会の発案により開催が検討された今回の研修会では、成年後見制度と日常生活自立支援事業の概要と具体的な事例について学び、多職種それぞれが地域包括ケアシステムの支え手として、患者や利用者を適切な相談機関等につなぐ意識の醸成を目的として開催されました。

## 小佐野地区の包括ケア体制 充実に向けた取組

各地区生活応援センターは、地域包括ケアシステム構築の実働拠点として、地域コミュニティによる健康安心づくりを推進しています。今回は、市内で唯一、“特養”と“老健”が立地する小佐野地区の取組について紹介します。

### 認知症支援サポーター「チームオレンジこさの」「チームオレンジこさのジュニア」

「チームオレンジ」とは、認知症の方や家族を支えるために、認知症サポーターがチームを組み支援する取組で、国では2025年までに全市町村での設置を目指しています。市では、令和4年7月、鶴住居地区で結成された「チームオレンジまぼうふう」について、12月に「チームオレンジこさの」が結成されました。さらに2月には、小佐野小学校5年生による岩手県初の、全国でも類を見ない「チームオレンジこさのジュニア」が結成されました。「チームオレンジこさの」と「チームオレンジこさのジュニア」は、様々な機関の協力と小佐野地区生活応援センターの支援のもと、お互いに交流しながら地域ぐるみで認知症の方や家族をサポートする活動を行います。



「チームオレンジこさの」結成式

### 社会福祉法人楽水会アミーガはまゆりの皆さんにお話を伺いました

「チームオレンジこさのジュニア」は、特別養護老人ホーム「アミーガはまゆり」が小佐野小学校4年生を対象として実施する認知症サポーター養成講座を、福祉学習の一環で受講しています。

平成25年度から毎年実施されてきた「アミーガはまゆり」の福祉体験学習は、年間3～4回開催され、施設見学や介護職の魅力について伝える内容で構成されています。取組に対する関係者の皆さんの“思い”をお届けします。



スタッフの皆様と久喜施設長

阿部課長

及川課長

平野マネージャー

**平野ディサービスマネージャー:** 学習を通じて、相手の気持ちを感じる心を育てていきたいと思っています。福祉を身近に感じることで、未来の「しごと」の候補として、記憶してもらえると嬉しいです。

**阿部介護サービス課長:** 毎年学習支援に携わってききましたが、年々「福祉」に対する、子供達の興味は高まってきていると感じます。より多くの子供が、将来福祉の担い手となってもらえるよう、一緒に学んでいく気持ちで継続していきたくと思っています。

**及川生活支援課長:** より多くの方々に、福祉の理解を深めていただくため、自法人のみならず、ほかの地域資源の活用を含めた包括的取組を目指していきたいと思っています。《多職種の皆さんへ》地域の魅力が福祉と感じてもらえるような、まちを作っていきましょう！

**久喜施設長:** 皆様が、「今日を楽しく、その人らしく」過ごしていただけるよう、地域資源の役割を担う、他法人とも協力しながら、地域貢献を高めていきたいです。

### 医療法人楽山会フレールはまゆり×小佐野地区生活応援センター

6月20日、小佐野地区生活応援センター三浦所長が医療法人楽山会を訪問し、千葉施設長・小笠原事務長・久保看護部長との面談が行われました。

フレールはまゆりでは平成20年頃から、中高生との体験学習や小佐野学童育成クラブ等と交流を行っていましたが、コロナ禍等により停滞。活動の再開の機会を模索している中での、今回の顔合わせとなり、小佐野地区の包括ケア体制の、今後ますますの発展、充実が期待される会合となりました。



三浦所長

久保看護部長

千葉施設長

小笠原事務長

# 令和5年度 各地区生活 応援センター保健師紹介

市では、5月現在 21名（内、産・育休2名）の保健師が在籍しており、令和5年度は10名が生活応援センターの地区担当保健師として配置されています。その内7名は、分野横断的に全世代の住民を対象として活動していますが、3名は高齢者を対象とした活動を行っています。各地区生活応援センターに配置された保健師を紹介します。

## 釜石地区

大町 3-8-3  
TEL: 22-0180

### 洞口 祐子

健康づくりは地域づくり！  
年を取っても閉じこもらず、「100歳体操」が地域内に普及したことで、健康相談等ではお会いしない方々の元気な顔を見る機会が増えて良かったです。  
顔の見える関係が大切だと思っています。よろしくお願いいたします。



## 平田地区

大字平田 6-123-1  
TEL: 26-7655

### 森下 絵梨

相談者の不安を軽減できるよう、関係機関とも連携を図りながら、丁寧に適切に対応することを心がけています。  
多職種チームの一員として、地区担当保健師として出来る事を取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



## 中妻地区

上中島町 2-6-36  
TEL: 23-5543

### 敬礼 宏子

様々な関係機関の担当者が集まって、地区センター会議を開催しています。お互いに情報共有を行うことにより、それぞれがその後の活動に生かしたり、協力し合ったりすることができていると感じています。皆様の力をお借りしながらやっていきたいと思っております。

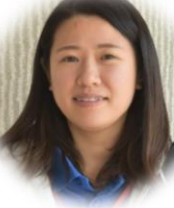


## 小佐野地区

小佐野町 3-4-25  
TEL: 23-5037

### 小笠原 綾子 ※高齢者担当

笑顔を忘れず、対象者に寄り添いながら、より良い判断が出来るよう、知識や経験を身に付けていきたいです。多職種と連携し、広い視野を持って地域を見れるようにしていきたいと思っております。今後も地域の為にがんばりますので、よろしくお願いいたします。



## 甲子地区

甲子町 10-255  
TEL: 21-3151

### 阿部 好香 ※高齢者担当

昨年の地区センター会議での課題から「洞関おたっしや相談会」「談話ルームかつし」が月1回開催され、孤立防止となり、地域のつながりの場となっています。多職種の皆さんと協力・連携して頑張りたいです。よろしくお願いいたします。



### 小原 茜

身近に感じられ、相談して良かったと思えるよう専門性を持ち、安心感を与えられる保健師でありたいです。担当地区は子育て世代も多いので、この地域での子育てが安心して楽しいと感じられるよう、人や地域資源につなげられる保健活動をしていきたいです。



### 板澤 綾子

「自分の健康は自分で守る」を意識して生活できるように、地域の皆様の健康づくりに役立てるようがんばります。  
1人1人の対応が大切だと感じています。ケースバイケースで多職種の皆様のお力を借りております。安心して老後を暮らせる釜石でありますように！

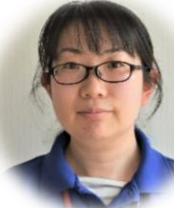


## 鵜住居地区

鵜住居町 2-901  
TEL: 28-2470

### 今野 香織 ※高齢者担当

昨年結成された「チームオレンジはまぼうふう」の活動が発展していくよう、メンバーの方々と一緒に取り組んでいきたいと思っております。  
多職種の皆さんと連携し、ご協力いただきながら尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



## 唐丹地区

唐丹町 小白浜 50  
TEL: 55-2111

### 芳賀 佳歩

様々な方のご協力で月1回健康教室を開催しております。住民の皆さんの思いに寄り添いながら、お話しすることを心がけています。関係機関の皆様には、いつも快く協力・連携していただき感謝の気持ちでいっぱい입니다。これからよろしくお願いいたします。

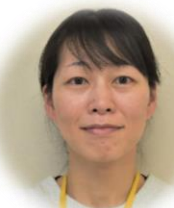


## 鵜住居・栗橋地区

橋野町 34-16-2  
TEL: 57-2111

### 佐藤 杏子

2つの地区を担当しています。  
地域に出て、たくさんの方と出会い、相手の目線に立って考えられる保健師になれたらと思います。地域の方々安心して生活できるように、多職種の皆様のお力をお借りできたらと思います。よろしくお願いいたします。



## 【発行】在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号 釜石市地域包括ケア推進本部事務局

TEL 0193-55-4536 FAX 0193-22-6375 E-mail kea@city.kamaishi.iwate.jp

【HP】<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/category/bunya/tiikihoukatukea/zaitakuiryounkei/>

【FB】<https://www.facebook.com/teamkamaishi/> QRコード読み取りでスマホからアクセスできます→

ホームページ

Facebook

